一緒にいてくれる、という助かり

昭和22年1月24日　第3種郵便物認可　大正2年創刊・通巻3405号

金光新聞

2022 令和4年 9/14

こんこうしんぶん 第1350号
毎月第2、4水曜日発行（年24回）

今号の紙面

教祖を訪ねて／第5回 …… 2 3
わたしの助かり「つらい記憶もありがたく」 …… 4
好きになった人は金光教 …… 5
あの時あの記事／平成20年9月28日号から …… 5
教務センター所長会議／本部 …… 6
大阪布教記念日集会 …… 7

フラッシュナウ

生きづらさ抱える人と向き合う「物差し」

「弱さ」認め生まれるつながり

能力主義と成果主義がうたわれ、「困った状況に陥ったのは自己責任だ」と指さされるような社会の中で、「自分自身が強くあらねばならない。人に迷惑をかけないよう自立しなければならない」という思いに縛られ、生きづらさを抱える学生が身近に増えてきた。

辻井篤生（金光教東京学生寮寮監／和歌山県勝浦教会）

世間体やプライドは脇に置いて

私が金光教東京学生寮の寮監に就任した1990年頃から「生きづらさ」「心の病」といった言葉をよく耳にするようになり、2000年頃からは、当学生寮でも精神的な不安を抱え、「ひきこもり」になる寮生が現れ始めた。心に変調を来すのは、非常に真面目で責任感が強い子が多い印象がある。周りの期待に応えようと、私や親の前では気丈に振る舞うので、学校の友人や先生から本人の様子を聞いて、最近休みがちであることを初めて知ることも多い。

今から約10年前、ある寮生が大学に通えなくなって部屋にこもりがちになり、親御さんが寮を訪れたことがあった。その子も、とても優秀で物事を完璧にこなそうとするタイプだった。親御さんは、優秀だったわが子が学校に行けなくなった事実が、信じられない様子だった。学校や本人に何か原因があるのではないかと探り、とにかく一度、本人を実家に戻して教育し直したいと言った。

しかし、私は連れて帰ると、今の状態が長期化する恐れがあると思い、まずは焦らずに様子を見てほしいとお願いした。その上で、私の娘が不登校になった経験を話し、子どもに過度な期待を寄せず、世間体やプライドといった「人間の物差し」をいったん脇に置いて、「神様の物差し」で事柄を見詰め直し、本人と向き合ってほしいと伝えた。

人間の物差しには、「優／劣」「美／醜」「できる／できない」など価値の目盛りが付いているので、自分の価値観に合わないものを責めたり、排除しようとしてしまう。一方、神様の物差しは目盛りがないので、比較したり、断定的な評価で見ることもない。対象の存在そのものを、ありのまま認め、大切にしようとする。私は、この話を常々、寮生たちにも語ってきていた。

寮生本人とは、負担にならないように適度な距離を取って見守りながら、親や周りの期待に応えようとしなくてもいいことを伝え、そして毎日神様にご祈念しながら、本音を語ってもらえるよう待った。その後、親御さんも無条件にわが子を受け入れようと努めたそうだ。本人もやがて本当の気持ちを語ってくれるようになり、1年半後には快方に向かった。

認め合い、足し合い共に生きる

初めて親元を離れて入寮する学生たちは、「自立」しようと意気込んでくる。その自立という思いをほぐし、肩の力を抜いてもらうために、人は皆、生まれてすぐは自分では何もできず、食事に排泄、睡眠も周りの人のお世話を必要としていた事実を思い出してもらう。そして、自分の弱さを認めて、他人に頼ることができるのが、本来の人間の姿だと話し、人間はそもそも「弱い」存在であり、完璧な人間は一人もいないことを伝える。

「自立した強い人間でなければならない」という一種の強迫観念を持ってしまうと、自分の弱さが許せなくなる。その不寛容は、他者の弱さに対する不寛容につながり、社会的弱者などへのバッシングや暴力に発展しかねない。確かに、自分自身の弱さに向き合うことほど難しいことはないだろう。自己責任を問われる社会にいるからなおさらだ。

しかし、「弱さ」を認め合えるからこそ、人は足りない所を足し合って生きていくことができる。そうやって「弱さ」でつながり合える関係がある。天地の恵みにお世話になり通しの人間の姿を知り、共に支え合い、共に育っていく金光教の信心の大切さを、改めて思わせられる。

金光教宣言

大いなる天地に生かされる人間として
すべてのいのちを認め、尊び
神と人、人と人、人と万物が
あいよかけよで共に生きる世界を実現する

購読料／1年分送料込みで1部5000円　2部以上1部につき4500円
お申し込みは金光教徒社事業部まで　＊郵便振替口座 01230-3-1583番

発行／金光財団 金光教徒社事業部
〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷338
TEL 0865-42-2037　FAX 0865-42-5087
HP http://konkozaidan.jp/kyotosya/

金光新聞の内容へのお問い合わせは、こちら
編集／金光教本部教庁 金光新聞編集室
〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷320
TEL 0865-42-7072　FAX 0865-42-9021